〈霞ケ浦特集〉

我が霞ケ浦

滝平二郎

高浜の在。今の玉里村の生まれで、トウがたつまでそこにいましたから、霞ケ浦は私にとって〝ゆりかご〟みたいなものです。玉里村の私の生まれた家は、溜っぺりから三十～四十メートルですから、家からかけ出していって、ドボン!!と霞ケ浦に飛び込んで泳いだものです。湖ですから、川の流れのように澄んだきれいな水ではなかったのですがね。それでも充分きれいでした。それがどうでしょう、昨今のかすみが浦は、ブツブツまるで煮え立ったみたいなアワが出て、青粉が発生して、私の生家の近くでも昨夏は、鯉がずいぶん浮き上がったそうです。

私も絵をかきながら、考えてしまうことがあります。今の開発優先の政治のあり方を告発するような調子の高いものを画いて欲しいということをいわれたりするのですが、私の今、画いているものは昔の、なつかしいもの暖いものを表現することによって、それを見る人の中に〝現代〟を考える……その〝とっかかり〟にしてもらいたいと思います。

私の画く世界は、効かりし頃のかすみが浦のへりの農村の印象……それがすべてといっていいくらいです。ですから、山を画くとみな筑波山になってしまいます。あまり筑波山ばかりでも申しわけないので時々は他の山も画きますが、私にとっては山はみな〝ふるさと〟の筑波山ですし、湖はみな〝ふるさと〟のかすみが浦なのです。

昔の、美しいかすみが浦は、私の魂の中に生きていますから、絵の中に表現することは出来ますが、現実にはもうなくなってしまったのです。

大企業中心の政策のオリがたまって、もう、どうしようもなく汚染されてしまったのです。

私にとって大事なふるさと霞ケ浦をこれ以上、開発の犠牲にしてほしくない……そんな気持ちでいっぱいです。

（版画家）